

給食だより 1月号

1月に入り、今年度も残り3か月を切りました。調理員一同、子供達が楽しみになるような給食づくりに努めて参ります。引き続きよろしくお願いいたします。

さて、1月には「全国学校給食週間」があります。学校給食週間は、学校給食による教育効果を促進する観点から、昭和25年度からはじまりました。



学校給食の始まり

明治22（1889）年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子どもたちへ食事を提供したのが始まりとされています。大正12（1923）年には、子どもたちの栄養状態を改善するための方法として、学校給食が国から奨励されるなど、各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で中止せざるを得なくなっていました。

支援物資による学校給食の再開

戦後、子どもたちの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和21（1946）年12月24日にLARA（アジア救援公認団体）から給食用物資の寄贈を受けて、翌1月に学校給食が再開されました。当初は12月24日を「学校給食感謝の日」としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」とすることになりました。

バラエティー豊かな献立内容に

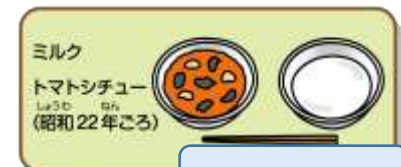
昭和29（1954）年に「学校給食法」が成立したことで、実施体制が法的に整い、学校給食は教育活動として位置付けられるようになりました。主食はパンが中心でしたが、昭和51年に米飯（ご飯）が正式に導入されると、カレーライスや炊き込みご飯などが登場し、献立内容が充実していきました。今では、地場産物を活用した給食、郷土料理や世界の料理など、さらにバラエティー豊かな献立内容になっています。

給食週間にあわせ、各時代をイメージした給食を提供します

1月23日に提供



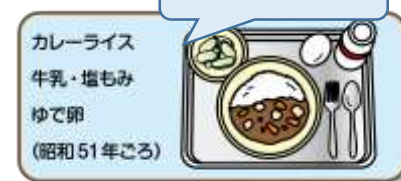
1月26日に提供



1月28日に提供



1月27日に提供



学校給食の内容は時代とともに変化していますが、いつの時代も変わらずに、「子どもたちが飢えることなく、おいしく食べて、健やかに成長できるように」といった願いが込められています。現代では、大人になっても自分自身で考えて健康な食生活を送ることができるように、学校給食は「教材」としての役割も担っています。